



見えないだけ 前期中間 対策

名前

年組
番

Q、「見えないだけ」は、なんという形式の詩か。漢字五字で書きなさい。

口語自由詩

Q、「見えないだけ」は何連からできているか答えなさい。

二連(2連)

Q、「見えないだけ」の第一連の四行目にある「海が眠っている」には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

擬人法

Q、「見えないだけ」の第一連の一・二行目「空の上にはもつと青い空が浮かんでいる」と、三・四行目「波の底にはもつと大きな海が眠っている」には、どんな表現技法が使われているか。漢字で答えなさい。

対句法

Q、「見えないだけ」の第一連の六・八・十行目「ことばがはぐくんでいる優しい世界」「蕾をさし出している美しい季節」「待ちかねている新しい友だち」には、おなじ表現技法が使われている。どんな表現技法か、漢字で答えなさい。

体言止め

Q、「見えないだけ」第一連の六行目にある「ことばがはぐくんでいる優しい世界」とは、どのような意味か。最も適切なものを次の中から選びなさい。
ア：ことばが、優しい世界を作っている
イ：ことばが、優しい世界を守っている
ウ：ことばが、優しい世界を育てている
エ：ことばが、優しい世界と共存している

Q、「見えないだけ」第一連の十行目にある「待ちかねて新しく友だち」とは、どのような意味か。最も適切なものを次の中から選びなさい。

A..待つことを我慢できなくなつた友だち

イ..ずっと待つてゐる友だち

ウ..そわそわと待つてゐる友だち

エ..待とうか迷つてゐる友だち

Q、「見えないだけ」の第二連の一連目には「あんなに確かにあるものが」と書かれているが、「確かにあるもの」とはなにか、「見えないだけ」の中に書かれているものを全て抜き出して答えなさい。

・もっと青い空　・もっと大きな海　・優しい世界

・美しい季節　・新しい友だち

Q、「見えないだけ」の詩の中で、作者の思いが最も現れている「ひと続きの二行」を抜き出して答えなさい。

あんなに確かにあるものが まだここからは見えないだけ

Q、「見えないだけ」の詩には「空の上」「波の底」「胸の奥」「次の垣根」「少し遠く」という言葉が使われているが、これらは「確かに在るもの」がある状態であることを表現するためと考えられる。ある状態とは、どのような状態か。詩の中から十字以内で抜き出して答えなさい。

ここからは見えない

Q、「見えないだけ」で作者が伝えたい思いとはなにか、最も適切なものを次の中から選びなさい。

ア..今の自分には見えなくとも、物事にはもっと大切なことがあることを忘れないようにならなければならない。

イ..人生とは、自分が思う以上にたくさんのが待ち構えているから面白いのだ。

ウ..世の中には、まだ知らない素晴らしいものがたくさん溢れでいるので、自分から一步踏み出してみよう。

エ..世の中には、今知っているよりも優れたものがたくさんがあるので、自分の未熟さを知らなければならぬ。

表現技法テスト① 各5点

名前 []

・次の文に用いられている表現技法（直喻・隠喻・擬人法・反復法・倒置法・対句法・体言止め）を漢字で答えなさい。

①弟のほっぺはりんごのようだ。

②弟のほっぺはりんごだ。

③月は東へ、日は西へ。

④草木が手を広げている。

⑤走っている選手たちが。

⑥走っている選手たち。

⑦咲いた、咲いた、桜が咲いた。

⑧小鳥たちが歌っている。

⑨静かなること林のごとし。

⑩ミンミン、ミンミンと蝉が鳴く。

反復法

直喻

擬人法

反復法

体言止め

倒置法

擬人法

対句法

隠喻

直喻

⑪しんしんと降る白い雪。

⑫うちの社長は炎の人だ。

⑬雪は降り積もる、私の上に。

⑭女の肌は雪のように白かった。

⑮花が散つて、実が熟れる。

⑯君の瞳はダイヤモンドだ。

⑰青く、青く、澄み渡る空だ。

⑱遅刻しまいと急ぐ生徒たち。

⑲遅刻しちやつた、学校に。

⑳天地が怒っている。

擬人法

倒置法

体言止め

反復法

隠喻

対句法

倒置法

隠喻

体言止め

★ アイス・プラネット 前期中間 対策

名前

年組
番

Q、「僕」のおじさんは、「ぐうちゃん」と呼ばれているが、その理由を本文の言葉を使って答えなさい。

長いこと「ぐうたら」しているから

Q、「ぐうちゃん」が、「僕」の家に住み着いていることを、本文中ではどんな言葉で表しているか。適切な言葉を本文中から五字で書き抜きなさい。

いそうちう

Q、「それを見て僕の母はまた怒る。」とあるが、その理由として最も適切なものを次の中から選びなさい。

A:自分の弟が、「ぐうちゃん」なんてあだ名をつけられてしまつて情けないから。
イ:ぐうちゃんが、長いこと僕の家に住み着いて「ぐうたら」しているから。

ウ:「ぐうちゃん」なんてあだ名をつけられても、うれしそうにしている弟が情けないから。

エ:ぐうちゃんが、「ぐうちゃん」と呼ばれて喜ぶような変わった人だから。

Q、「父はぐうちゃんのいそうちうを歓迎しているみたいだ」とあるが、その理由を本文から抜き出し、初めの十字を答えなさい。

ぐうちゃんがいると何

Q、本文から、ぐうちゃんが「ぐうたら」している様子を詳しく描写している一文を抜き出し、初めの十字を答えなさい。

ぐうちゃんは、家にい

Q、母はぐうちゃんに「いそうろう」から卒業しないと怒っているが、「いそうろうから卒業」とはどのようなことを表しているか。「～こと」と続くように本文の言葉を使って十字以上十五字未満で答えなさい。

ちゃんと就職して早く独立すること

Q、「母は今度は僕に向かって、「ぐうちゃんみたいな大人になつてはだめだからね。」と言う。」とあるが、この母のいう「ぐうちゃんみたいな大人」とはどういう大人か、本文の言葉を使って説明しなさい。

ちゃんと就職しないで、いそうろうしている大人

Q、「僕」は、学校に行く途中で友人に会った時、「初めはどうしようかと思ったけどぐうちゃんに聞いた話を友人にしているが、なぜ「初めはどうしようかと思った」のか。その理由として最も適切なものを次のの中から選びなさい。

A:馬を飲み込むアナコンダや、三メートルのナマズ、氷の惑星の話なんて中学生には幼稚な話だったので、友人に馬鹿にされるかもしれないと思ったから。
イ:ぐうちゃんの話は文句なしに面白いので、友人に教えてしまるのは勿体なかつたから。

ウ:まだあまり仲の良くない友人なので、馬を飲み込むアナコンダや、三メートルのナマズ、氷の惑星の話のようなどんでもない話をしたら変に思われるのではないかと思つたから。

E:馬を飲み込むアナコンダや、三メートルのナマズ、氷の惑星の話なんて信じてもられないのではと思ったから。

Q、「僕」の友人は、「僕」から聞いた話を「どのような話」だと判断したか。本文の言葉を使って説明しなさい。

小学生でも信じないほら話

Q、「僕」は、「ぐうちゃん」に証拠を見せるよう言つたが、言い逃れされてしまったのを境にぐうちゃんの部屋にはあまり行かなくなっていたが、その時「僕」が「ぐうちゃん」に抱いていた気持ちとして最も適切なものを次のの中から選びなさい。

ア：言い逃れするしかなかつたぐうちゃんへの哀れみ

イ：証拠を見せるよう迫つてしまつた恥ずかしさ

ウ：ほら話しかできないぐうちゃんに対する軽蔑

エ：証拠を見せられなかつたぐうちゃんへの諦め

オ：「僕」の人生を全面的にからかつたぐうちゃんへの怒り

Q、「悠太に悪い影響が出ないか心配でしかたがないのよ。」とあるが、「悪い影響」とは具体的にどのようなことか。「～こと」と続くように本文の言葉を使って答えなさい。

大人になつても毎日働かなくてもいいと思って勉強の意欲をなくす（こと）

Q、「僕のこと」でぐうちゃんが責められるのは少し違う気がする。」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを次のの中から選びなさい。

ア：僕はぐうちゃんの部屋にはもうあまり行かなくなつていたので、影響を受けるはずがなかつたから

イ：僕の将来のことは僕の問題で、ぐうちゃんの責任ではないから

ウ：ぐうちゃんの話はほらばかりだと僕はちゃんと気がついていたか

エ：ぐうちゃんは「ぐうたら」していても、なんとか生活できているから

Q、ぐうちゃんから外国へ旅に出てしまふことを聞いて、ショックを受けているから
どんどん遠くなつていく」と感じているが、その理由としてもつとも適切なものを次のの中から選びなさい。

ア：外国へ行つてしまふぐうちゃんが、遠い存在になつてしまふと思ったから

イ：外国へ行つてしまふぐうちゃんの話なんか、もう聞きたくないとと思ったから

ウ：ぐうちゃんが外国へ行つてしまふことを聞いて、ショックを受けているから

エ：外国へ行つてしまふぐうちゃんのことを、段々と嫌いになつてしまつたから

Q、外国へ行くと話したぐうちゃんに対して、「僕」は「ぶつかりっぽうに」「勝手に行けばいいじゃないか」と言ったあるが、(イ)での「ぶつかりっぽうに」と同じ意味である言葉を本文から三字で抜き出しなさい。

無愛想

Q、「勝手に行けばいいじゃないか」と言った「僕」の気持ちをもつとも適切に説明しているものを次のなかから選びなさい。

ア..ほら話ばかりなので、もうぐうちゃんには興味がなくなつてしまつた
イ..もっとぐうちゃんのほら話を聞きたかったのに、ぐうちゃんが旅に出ると知り悲しくなつた

ウ..「僕」の人生を全面的にからかわれたことに怒っていた
エ..母にいつも怒られていたぐうちゃんが、やつと旅に出る決意をしたことを応援している

Q、「いそぞろう」を卒業してしまつた」とあるが、この作品ではどのような内容のことを表現しているのか、次の文の空欄に当てはまる言葉を本文から抜き出して答えなさい。

(ア)に行くために、(イ)が「僕」の家を(ウ)こと。

【ア】外国

【イ】ぐうちゃん

【ウ】出ていった

Q、ぐうちゃんが家を出て行ったあと、「ほらばっかりだつたじゃないか。」と「僕」は思つたとあるが、その時の気持ちを最も適切に説明しているものを次のなかから選びなさい。

ア..ぐうちゃんの話がほらばかりだつたと気がついて怒つている
イ..最後までほら話しかしなかつたぐうちゃんを情けなく思つてている
ウ..ぐうちゃんが出ていつてしまつたのは寂しいが、ほらばかりだつたから寂しがる必要はない、と自分を慰めている
エ..もうぐうちゃんのほら話が聞けなくなつてしまい、悲しんでいる

Q、アイスプラネットを言い換えた言葉を七字で書き抜きなさい。

もう一つの宇宙

Q、不思議アタマとは、どのようなアタマか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

様々なことに興味や疑問を抱き、それを探求する「アタマ」のこと。

Q、ぐうちゃんからの手紙には、ぐうちゃんが「僕」に対してしてほしいことが書かれているが、次の【A】と【B】について、どうして欲しいと伝えていたか。それぞれ本文から、【A】については八字、【B】については十二字で書き抜いて答えなさい。

【A】 アイスネットについて

【B】 世界は、楽しいこと、悲しいこと、美しいことで満ち満ちているということについて

【A】

いつか見てほしい

【B】

自分の目で確かめてほしい

Q、作品を通して、ぐうちゃんはどのような人物として描かれていたか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何事にも消極的で他人に流されてしまいやっくなかなか一人立ちできない人物。

イ 世間の常識にとらわれず、まっすぐな信念をもつて自分の生き方を貫く人物。

ウ 他人からの要求は何でも拒まず柔軟に受け入れられる、器用な人物。エ 曲がったことや間違ったことは絶対許さない、正義感にあふれた人物。

Q、「アイス・プラネット」が象徴しているものとして、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 人間が責任をもつて守つていかなければならぬ、大自然の美。
イ 目に見える物事の裏に隠れている、世界を動かす大きな力。
ウ 常識にとらわれていては見ることのできない、世界の不思議。
エ 大人になつてもずっと心に抱いていたい、純粹な少年の心。

★ 枕草子 前期中間 対策

名前

年組番

春はあけぼの。①やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇も②なほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くむ③をかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のとしてA山の端いと近うなりたるに、鳥からすの寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐやへあはれなり。Bまいて雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音ねなど、はた④言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶ひおけの火も白き灰がちになりてわろし。

(第一段)

Q、下線部【①】～【④】を、現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。

- ①ようよう
- ②なお
- ③おかし
- ④いうべき

Q、「あけぼの」の意味を現代語で答えなさい。

明け方

Q、「あかりて」の意味を現代語で答えなさい。

明るくなつて

Q、「さらなり」の意味を現代語で答えなさい。

言うまでもないが

Q、「なほ」の意味を現代語で答えなさい。

やはり

Q、「まいて」の意味を現代語で答えなさい。

まして

Q、「いと」の意味を現代語で答えなさい。

とても(たいそう)

Q、「つとめて」の意味を現代語で答えなさい。

早朝

Q、「つきづきし」の意味を現代語で答えなさい。

似つかわしい

Q、「山ぎは」と対照的に使われている言葉を本文から抜き出して答えなさい。

山の端

Q、下線部A「山の端いと近うなりたる」とあるが、何が山の端に近づいているのか、本文中の言葉を書き抜いて答えなさい。

夕日

Q、下線部B「まいて雁などの…いとをかし」とあるが、この部分の意味を最も適切に説明しているものを次のの中から選びなさい。

ア：鳥の後を追いかけるように雁が急いで続していく姿がとても小さく見えるのは趣がある

イ：鳥が寝ぐらへ急ぐ姿もしみじみとするが、まして雁が連なつてとても小さく見えるのは趣がある

ウ：鳥が寝ぐらへ急ぐ姿もしみじみとするが、鳥から逃げようと雁が連なつてとても小さくなつていく姿は趣がある

エ：雁が鳥の寝ぐらを探そと急ぎ飛ぶ姿は哀れだが、連なつてとても小さくなつていく姿は趣がある

Q、「ぬるくゆるびもていけば」とあるが、何が緩んでいくのか。もつとも正しいものを次のの中から選びなさい。

ア：火桶の火の勢い イ：降り積もつた雪 ウ：寒さ エ：霜

Q、冬について書かれている部分で、作者が「良い」と思っているものとしてハッキリ書かれているものを次のの中から全て選びなさい。

ア：早朝

イ：雪が降ること

ウ：霜がとても白いこと

エ：とても寒いこと

オ：炭を持って廊下などを歩くこと

カ：昼になること

キ：寒さがゆるむこと

ク：火桶の火が白い灰ばかりになること

Q、「枕草子」の第一段の中で、「をかし」「あはれ」とは対照的に使われている言葉を本文の中から書き抜いて答えなさい。

わろし

Q、「わろし」とは、あまり良くないという意味だが、作者はどういう様子が良くないと言っているのか。現代語で答えなさい。

昼になつて寒さがゆるんでいつて、火桶の火が白い灰ばかりになる様子。

Q、この作品を一言で表す場合、どんな文学だといえるか。次の文の空欄に入る言葉を、本文中から三字で書き抜きなさい。

】

をかし

】の文学。

Q、この作品の名前を答えなさい。

枕草子

Q、この作品が書かれた時代を答えなさい。

平安時代

Q、この作品の作者を答えなさい。

清少納言

Q、この作品の文学ジャンルを答えなさい。

隨筆

品詞表

品詞	見分け方	例
動詞	ウ段で終わる	遊ぶ、食べる、走る、ある、いる、学ぶ
形容詞	～イで終わる	楽しい、悲しい、白い、美しい、大きい、難しい
形容動詞	～ダで終わる	静かだ、大変だ、きれいだ、元気だ
名詞	体言=主語になる	学校、私、とき、もの、こと、楽しみ、寒さ
副詞	状態、程度、陳述	かなり、ちょっと、ゆっくり、決して、もし
連体詞	な、の、た、る、が で終わる	大きな、おかしな、その、あの、この、大した、 いわゆる、あらゆる、ある、我が、我らが
接続詞	文と文をつなぐ	だから、そこで、したがって、しかし、また
感動詞	感動、応答、挨拶	ああ、まあ、もしもし、はい、おはよう
助動詞	受け身、使役、打ち消し、 伝聞・推定	れる、られる、せる、させる、ない、まい、 そうだ、らしい、ようだ、そうだ
助詞	単語をつなぐ	が、から、も、を、に、の、から、だけ、くらい

(　　)年(　　)組(　　)番名前(　　)

)

一次の各文の一線部の単語の品詞名をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。(10点×4問)

(1) 今日の夕飯は僕の大好きなカレーライスだ。

(2) 昨日の夜は暑くて寝苦しかった。

(3) 今私が一番夢中になつていることは音楽を聴くことだ。

(4) 今年の合唱コンクールは、指揮者に立候補する予定だ。

ケ

力

キ

ア

点

ア 名詞	イ 副詞	ウ 連体詞	エ 接続詞	オ 感動詞
カ 動詞	キ 形容詞	ク 形容動詞	ケ 助詞	コ 助動詞

二次の文について、あとの問い合わせに答えなさい。(10点×6問)

・今年の大会にはあらゆる国の人々が大勢集まる予定です。

(1) 自立語で活用のある単語を書き抜きなさい。
(集まる)

(2) (1)で抜き出した単語の品詞名を書きなさい。
(動詞)

(3) 自立語で活用のない単語をすべて書き抜きなさい。

(今年・大会・あらゆる・国・人々・大勢・予定)

(4) 付属語で活用のない単語をすべて書き抜きなさい。
(の・に・は・の・が)

(5) 付属語で活用のある単語を書き抜きなさい。
(です)

(6) (5)で抜き出した単語の品詞名を書きなさい。



12 品詞 体言と用言

名前 _____ 学年 _____ 組番 _____
 月 日 学年社版

1 次の文の——線部の単語の品詞名を書きなさい。

(1) これは、地図を書くときに便利だろう。

(2) このままでは日が暮れてしまう。

(3) あら、それは私のコートですよ。

(4) あの指輪は見た目ほど高くない。

(5) あわてて玄関から外へ出た。

(6) お茶にしますか、それとも、コーヒーにしますか。

(7) 計画実行の前に、あらゆる危険を想定する。

(8) 達成するのはかなり困難な課題だ。

解説 (7)・(8)は活用しない自立語。それぞれ体言「危険」、用言「困難な」を修飾している。

2 次の単語は体言・用言のどちらですか。それ書きなさい。

(1) 喜ぶ (2) 喜び

(3) 悲しみ (4) 悲しい

(5) 痛い (6) 痛む

(7) 細やかだ (8) 細やかさ

3 次の文の——線部の単語が体言なら「体」を、用言なら「用」を書きなさい。
解説 体言とは名詞のこと、用言とは動詞、形容詞、形容動詞のこと。

(1) 突然、ドアが開いた。

(2) 友達からすすめられた本を、読んでみた。

(3) 荷物が重い。

(体)

(用)

(命の重みを知る。)

(2) 動詞。

(3) 形容詞。

(4) 形容詞 「重い」 からできた名詞で、体言である。

(7) 用言	(5) 用言	(3) 体言	(1) 用言
(8) 体言	(6) 用言	(4) 用言	(2) 体言

文法 品詞の分類

1 品詞分類表を完成させよう

ポイント①

分類の順序を確かめながら、正しい品詞名を書き入れよう。

- ①単独で文節を作れるか
- ②語形が変化するか
- ③どんな文の成分になるか
- ④表す意味や、終わり方などはどうか

【品詞名は】これだ！



この四段階で見分け分け！

名	前	組
正答数		30問

単語

自立語

ある

ない

自立語

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

用言

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

主語

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

修飾語

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

体言

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

人・事・物を表す

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

修飾語

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

接続語

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

助動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

名詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

感動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

連体詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

副詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

連体詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

副詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

形容動詞

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

ない

ある

熟語の組み立てテスト② 各5点×20

名前【

①次のそれぞれにあてはまる成り立ちの熟語をとから
二つずつ選び、記号で答えなさい。

②次の□に「的・性・然・化」を入れ、熟語を作りなさい。

①似た意味の字を重ねたもの

②意味が反対になる字を重ねたもの

③長い言葉を省略したもの

④上の字が主語、下の字が述語になるもの

⑤上の字が下の字を修飾するもの

⑥下の字が上の字の目的語になつているもの

⑦上の字が下の字を打ち消しているもの

⑧意味を添える語があとについたもの

ア 無罪	イ 腹痛	ウ 知的	エ 温暖
オ 降車	カ 宣伝	キ 築城	ク 不満
ケ 市営	コ 前後	サ 砂丘	シ 取捨
ス 農協	セ 清流	ソ 自然	タ 原爆

ウ	ア	オ	サ	イ	ス	コ	工
.
ソ	ク	キ	セ	ケ	タ	シ	カ

①緑
化

②歴
然

③詩
的

④理
性

一次の(1)～(5)の熟語と同じ構成の熟語をあとの一組選び、□に記号を書きこましょう。

【完答 各一点】

(1) 永久 ウとキ

(2) 遠近 エとク

(3) 地震 オと力

(4) 登山 イとケ

(5) 軽傷 アとコ

ア 水路 イ 就職 ウ 変換 エ 異同 オ 市立
 カ 腹痛 キ 比較 ク 難易 ケ 点火 コ 少量

【各一点】

(1) ● 合格

不

(2) ● 公式

非

二次の(1)～(5)の熟語の●には「不・無・非・未」のいずれかを、▲には「的・性・化」のいずれかを入れて、三字熟語を作りましょう。

(5) 映画▲

化

(3) ● 意識

無

(4) 基本▲

的

基本1 見えないだけ

目 時に込められた思いを捉える。

100
満点アシスト

組名前
知能
3点×10
/50 /50 /100

- 1 —の漢字は仮名に、仮名は漢字に直しなさい。
- 心に浮かぶ。
 - 奥の部屋へ案内する。
 - 情報を検索する。
 - 注意を促す。
 - 証拠を示す。

う
おく
けんさく
うながす
しようこ
かぶ

- 大声でサワグ。
- シンセキの家に泊まる。
- キヨリを縮める。
- エイキヨウを受ける。
- 船がユレル。

向きに注意
距 親 騒 影 韻 摆
離 戚 韶 韶 韶 韶
歩ではない

2

後の問い合わせに答えなさい。

- の言葉の意味を、次から選びなさい。
 ① 子犬をはぐくむ。 ② 彼が来るのを待ちかねる。
 ア 連れていく イ 今か今かと待つ ウ 養い育てる エ 見守る
- が指示する言葉を、文章中から書き抜きなさい。
 ① 公園に着いた。ここで遊ぼう。 ② 気ままな生活。そんな生活を夢見る。

3 次の詩を読んで、後の問い合わせに答えなさい。(数字は行番号を表す。)

見えないだけ

牟礼慶子



(完答) (順不同)		3	2	1
思・判・表	5点×10	知・技	5点×4	知・能
ア	公園	ウ	イ	
新し い友 だち	美し い季 節	優し い世 界	もつ と大 きな 空	6 ・8 ・10
5	5	5	5	7

3	2	1
思・判・表	5点×10	知・技
ア	公園	ウ

① 漢字で書くと「育む」となる。

① 対句

空の上には

もつと青い空が浮かんでいる

波の底には

もつと大きな海が眠っている

対句は、言葉を形や意味が対応するように並べる方法。

① 対句

空の上には
もつと青い空が浮かんでいる

波の底には
もつと大きな海が眠っている

対句は、言葉を形や意味が対応するように並べる方法。

② 同じ言葉を繰り返す「反復」と混同しないように注意。

③ 行末が体言(名詞)になつていて行を探す。

④ 「まだここからは見えないだけ」で、「もつと青い空」や「もつと大きな海」などがあると確信し、「これから出会いされることに期待する思いを捉える。

- 1~2行目と対応している行の番号を、それぞれ書きなさい。
- この詩から感じられるものとして最も適切なものを、次から一つ選びなさい。表現技術の名前を漢字二字で書きなさい。
- 体言止めが使われている行の番号を全て書きなさい。
- 「あんなに確かに在るもの」として、作者は何を挙げているか。五字以上七字以内で五つ、順に書き抜きなさい。
- この詩から感じられるものとして最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

- 未来に対する期待や希望。 イ 過去に対する後悔や不満。
- 未来に対する不安や迷い。 エ 過去に対する満足や喜び。
- ア 未来に対する不安や迷い。

大問2の復習

おぼえよう

はぐくむ 養い育てる
待ちかねる 今か今かと待つ
「……かねる」で、「……する」こと
が耐えられない・できない」とい
う意味になる。

- ① おぼえよう
- ② 大自然が、生き物たちを

()に入る言葉として適当なもの
を、上の語句から選びなさい。

① 主役の登場を

答え ①待ちかねる ②はぐくむ

⑤ 「まだここからは見えないだけ」で、「もつと青い空」や「もつと大きな海」などがあると確信し、「これから出会いされることに期待する思いを捉える。

③ 行末が体言(名詞)になつていて行を探す。

② 同じ言葉を繰り返す「反復」と混同しないように注意。

① 対句

空の上には
もつと青い空が浮かんでいる

波の底には

もつと大きな海が眠っている

対句は、言葉を形や意味が対応するように並べる方法。

② 同じ言葉を繰り返す「反復」と混同しないように注意。

③ 行末が体言(名詞)になつていて行を探す。

④ 「まだここからは見えないだけ」で、「もつと青い空」や「もつと大きな海」などがあると確信し、「これから出会いることに期待する思いを捉える。

⑤ 「まだここからは見えないだけ」で、「もつと青い空」や「もつと大きな海」などがあると確信し、「これから出会いることに期待する思いを捉える。

◀ファイルにとじて、復習に活用しよう。▶



1 — の漢字は仮名に、仮名は漢字に直しなさい。

基本2 アイスプラネット

目録 登場人物の設定や人物どうしの関係、人物像を捉える。

相	番
名前	

1 知・技 3点×10

/50

/50

/100

- ① 唯一の宝物。
② 幼稚な考え方。
③ 勘違いをする。
④ 急いで逃げる。
⑤ 人を羨む。

- ⑥ アヤシイ話をする。
⑦ 馬のアシの骨。
⑧ 友人を写真にトル。
⑨ ユウベンな物言い。
⑩ 言葉にツマル。

ゆいいつ
ようち
かんちがい
うらや
む
に
げる

- 1 知・技 3点×10
/50
/50
/100

怪しい
脚
撮
雄
詰まる
弁
左にはらう

- 100
満点アシスト

- 2 — の言葉の意味を、次から選びなさい。
① 蛇行して流れる川。
② 檻端に大きなシャツ。
③ 精密な検査をする。
④ 遅刻の口実を考える。
ア 細部まで丁寧で正確であること。イ 言い逃げの理由や言いがかりの材料。
ウ 普通から大きく外れていること。エ 曲がりくねって進むこと。
オ 説得力をもつて堂々と話すこと。

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

僕のおじさんは「ぐうちゃん」という。津田由起夫三十八歳。いそうちろう。僕の母親の弟だ。いつも母に怒られている。学生の頃に外国のいろんな所を旅していたらしく、気付いたときには僕の家に住み着いていた。そして、長いこと「ぐうたら」しているからいつのまにか「ぐうちゃん」というあだ名になってしまった。でも、ぐうちゃんは変わった人で、そう言われるとなんだかうれしそうだ。それを見て僕の母はまた怒る。怒っているから母もちょっと変わっている。
僕の家は東京の西の郊外にあって、父の祖父が建てた。古い家だけれどぐうちゃんが「いそうちろう」できる六畳間があつて、そこでぐうちゃんは「ぐうたら」している。父は単身赴任で仙台にいて、週末に帰ってくる。「ぐうちゃんがいる」と何か力仕事が必要になつたときに安心だから父はぐうちゃんの「いそうちろう」を歓迎しているみたいだ。

(1) ①「おじさん」とあるが、
I おじさんのA年齢、B家の立場、Cあだ名を、それぞれ書き抜きなさい。
II おじさんと他の登場人物との関係についてまとめた次の文の空欄1、2に入れる言葉を、それぞれ一字で書き抜きなさい。
*語り手である「1」のおじさんであり、母親の「2」。

おじさんのあだ名の由来を十六字で探し、初めと終わりの四字を書きなさい。(完答)

(6) (5) (4) (3) (2) (1)

終わり 初め 終わり 初め 終わり 初め

2 1 C B A

弟 僕

ア エ
イ ウ

④ ②

5点×10 /50

2 短接 5点×4 /20

3 意・判・表 5点×10 /50

1 知・技 3点×10

/50

/50

/100

(1) I おじさんの設定が、一文目に簡潔に書かれている。
II この作品が、「僕」の視点で語られていることをおさえよ。

(2) 一番はし、から転じて大きかたよつていることを意味する。

(4) 「ぐうたら」していることをあだ名にされているにもかかわらず、あだ名で呼ばれるとうれしそうな様子をみせることから、「変わった人」と捉えている。

(5)(6) 怒りつつもぐうちゃんを思つ母や、ぐうちゃんを歓迎する父といった、家族の姿勢をおさえる。

◀ファイルにとじて、復習に活用しよう。▶

大問2の復習

おぼえよう

蛇行 曲がりくねって進むこと

極端 普通から大きく外れていること

精密 細部まで丁寧で正確であること

と

- ① ()に入る言葉として適当なもの
を、上の語句から選びなさい。
① 車が()して走るのは
危険だ。

- ② とても()で、少しも
遅れない時計。

精密 細部まで丁寧で正確であること

と

- ① 車が()に入る言葉として適当なもの
を、上の語句から選びなさい。
① 車が()して走るのは
危険だ。

- ② とても()で、少しも
遅れない時計。

答え ①蛇行 ②精密

発展 2 アイス・プラネット

次の文章を読んで、下の間に答えなさい。

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に帰ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくした頃だった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなつて困った。残暑が厳しい日だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話(ほら話を聞きたい)と思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じだ。

ところが、ぐうちゃんの話は、でつかい動物のでも、暑い国のでも、寒い国(寒い国)の話でもなかつた。旅費がたまたまつたから、これからまた外国をふらしてくるよ。

ぐうちゃんは突然そう言つた。「でもまあもう少し」にはこんな意味があつたのか。ぐうちゃんはいつも変わらずに話を続けている。それに、ぐうちゃんの声はどんどん遠くなつていく。気がつくと、僕はぶっきらぼうに言つていた。

「勝手に行けばいいじゃないか。」

ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をして、僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかつた。母は、そんな僕たちに、あきれたり慌てたりしていたけれど、父は何も言わなかつた。

十月の初めに、ぐうちゃんは小さな旅支度をして、僕は部屋を出た。

出发(出発)の日、僕は、何て言つていいのかわからなくなつてしまつた。母は、そんな僕たちに、あきれたりして、大股(だいだく)で僕の家を出ていった。

「ほらばっかりだつたじで、僕はそう思った。」

握手をして、大股で僕の籠もつた強い

「いそうろう」を卒業(しゅぎょう)してしまつた。

今までぐうちゃんの前に立つて、ぐうちゃんのどんな様子が読み取れるか。次の文の空欄に入る言葉を、

例 5 「僕」が「勝手に行けばいいじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

*取り残された「僕」。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

4 一線部(4)から、「僕」のどんな心情がわかるか。次の文の空欄に入る言葉を一つ選びなさい。

例 3 (1) 出発したことを言い換えた言葉を十六字で探し、初めの八字を書きなさい。

(2) 出発の日の「」とあるが、

3 (3) 「出発の日」であるが、

4 (4) 出発したことを言い換えた言葉を十六字で探し、初めの八字を書きなさい。

5 (5) 「僕」に対する「」や「」と、旅立つことへの

想いが 3 様子。

ア 安心 イ 愛情 ウ 激励 エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

6 (6) 「僕」が「勝手に行けばいいじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

7 (7) 「僕」が「勝手に行けばいいじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

8 (8) 「僕」が「勝手に行けばいいじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

9 (9) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

10 (10) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

11 (11) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

12 (12) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

13 (13) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

14 (14) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

15 (15) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

16 (16) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

17 (17) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

18 (18) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

19 (19) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

20 (20) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

21 (21) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

22 (22) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

23 (23) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

24 (24) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

25 (25) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

26 (26) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

27 (27) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

28 (28) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

29 (29) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

30 (30) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

31 (31) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

32 (32) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

33 (33) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

34 (34) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

35 (35) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

36 (36) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

37 (37) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

38 (38) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

39 (39) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

40 (40) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

41 (41) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

42 (42) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

43 (43) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

オ 不安 (1・2は順不同可)

1 イ 2 ウ 3 強い

44 (44) 「僕」が「勝手に行けばいいんじゃないか」とぶっきらぼうに言つたのはなぜか。「僕」の心情に触れないが、三十字以上四十字以内で書きなさい。

ア 寂しさ イ 安堵 ウ 喜び エ 軽蔑

<p

1

自動詞・他動詞 次の——線部の自動詞に対応する他動詞を一例にならって書きなさい。 (4点×2)

例) 野菜が育つ。→ 野菜を(育てる)。

① 目が覚める。→ 目を()。

② 水が流れる。→ 水を()。 覚ます()。

2

補助動詞 次の文中から補助動詞を四つ探し、そのまま書き抜きなさい。

父は調理師である。仕事をしているときの父からは、真剣さが伝わってくるので見とれてしまう。

() ある () いる () くる () しまう

(顛不可)

3 名詞 次の各文から、名詞を一つずつ選んで書き抜きなさい。 (4点×2)

① イギリス を 旅行する。

② 花束 を 買つて くる。

4 名詞の種類 次の——線部の名詞の種類を、後から一つずつ選びなさい。 (4点×5)

① 私は、^②六年生のころから看護師になりたいと ^③いう夢をもっていた。それで、夏休みに、^④ナイチンゲールの伝記を読むことにした。

① (イ) ② (エ) ③ (ア)
④ (ウ) ⑤ (オ)

ア 普通名詞 イ 代名詞 オ 形式名詞 ウ 固有名詞
工 数詞

5 連体詞 次の各文から連体詞を一つずつ探し、——線を引きなさい。 (4点×2)

① ある 日、手紙が届いた。

② 友人からおかしな話を聞く。

入試問題に挑戦! 連体詞

次の——線をつけた言葉が、「大きな」と同じ品詞であるものをア～工から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 危険な漂流物

イ ある日本人論

ウ 長いこつもり傘
工 縮める方向

(徳島県)

「大きな」は「の・る・な」の「な」で覚えた連体詞だね。
ア～工の中から、連体詞を一つ探そう!



文法ナビ



アは「な」だけれど、「危険だ」と言えるから形容動詞。イは「の・る・な」の「る」で覚えた連体詞。ウは「の・る・い」で終わるから形容詞。工は「る」だけど、「縮めない」「縮めます」と活用できるから動詞。 答えはイ。

6

副詞 次の——線部の副詞の働きを、後から一つずつ選びなさい。

ア 状態の副詞(「どのように」という状態を表す働き) 程度の副詞(「どのくらい」という程度を表す働き)

ウ 呼応の副詞(下に決まった言い方がくる)

① もし雨が降つたら体育館に集合。()

② 赤ちゃんがすやすやねむる。()

③ もつとゆっくり話してください。()

④ 赤ちゃんがすやすやねむる。()

⑤ もつとゆっくり話してください。()

7 接続詞 次の——線部の接続詞の働きを、後から一つずつ選びなさい。

ア 対比・選択 イ 順接 ウ 並列・累加

エ 感動 オ 説明・補足 ハ 握接 カ 転換

① 五月の半ば、つまり、初夏のことだ。()

② 全部終わつた。さて、食事にしよう。()

③ 姉は優しい。そのうえ、まじめだ。()

④ こんには、いいお天気ですね。()

⑤ いいえ、私は傘を持っていません。()

8 感動詞 次の——線部の感動詞の働きを、後から一つずつ選びなさい。

ア 感動 イ 呼びかけ ウ 指示 エ 挨拶

① 彼が去る日も近い。()

② どれを買おうか。()

③ おおい、みんな集まれ。()

④ いいえ、私は傘を持っていません。()

(イ) (エ) (ア) (ウ) (カ) (イ)

(オ)

(カ)

(イ)

(エ)

(ア)

(ウ)

(カ)

(イ)

(エ)

9

単語のいろいろ 次の——線部の語の品詞名を、それぞれ書きなさい。

(各空答々々点×3)

① A 去る八日に行われた。()
② B 彼が去る日も近い。()
③ C どれを買おうか。()
④ D 結末はどうなるのかな。()
⑤ E 暖かな日が三日も続いた。()
⑥ F 暖かさが増していく。()

(名詞)

(形容動詞)

(副詞)

(連体詞)

(動詞)

(名詞)

(連体詞)

(動詞)

(名詞)

(副詞)

(連体詞)

(動詞)

(名詞)

(副詞)

(動詞)

7

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

6

ア～カの働きと、それぞれ

の代表的な接続詞とを結び付けて覚えておくとよい。ア「順

接」の接続詞は「それで」や「だから」など。エ「対比・選択」

の接続詞は「それとも」など。

5

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

4

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

3

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

2

「て」や「で」に続く動詞に注意する。

人名・地名は固有名詞。

「読む」を受ける形式名詞。

意する。

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

1

主語 野菜が育つ。

他動詞 兄が野菜を育てる。

意する。とするのが他動詞。自動詞と他動詞では主語が変わることに注意しよう。

連体詞を探す際は、初めに

名詞(体)を探してから、そ

の名詞を修飾する言葉がない

かを探すとよい。

① 後ろに「たら・なら(ば)」がくる呼応の副詞。

② 「すやすや」や「きらきら」などの擬態語は状態の副詞。

③ 「ゆっくり」という副詞を修飾している。

満点アシスト

100

得点 /100

関連動画は
こちら →



は→わ	はまのがは→あまのがわ
ひ→い	ひたひ → ひたい
ふ→ふ	にほふ ↓ におう
へ→え	こたへて ↓ こたえて

大問2の復習

歴史的仮名遣い

次の語を、現代仮名遣いに直して、すべて平仮名で書きなさい。

① 山ぎは ()

② あはれ ()

③ 言ふ ()

語頭・助詞以外のハ行はワ行に直す

は→わ

ひ→い

ふ→ふ

へ→え

こたへて

↓こたえて

◀ファイルにとじて、復習に活用しよう。▶

- (1) 春はあけぼの。やつやつ白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のはそくなびきたる。
夏は夜。月のころはさらなり、間もなほ、**虫の多く飛びちがひたる。**またただ一つ二つなど、ほかにうち光りて行くもをかし。
雨など降るものかし。
- (2) 「山ぎは」の意味の説明となるように見える。(1)春はあけぼの。(2)山ぎは明け方の時間が短い。
ア 春は明け方の時間が短い。 イ 春は明け方の過ごし方が大事だ。
ウ 夏のむし暑さ。 エ 雨が降る夜。
- (3) 「空」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (4) 「さらなり」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (5) 「飛びちがひたる」の意味を、現代語訳から書き抜きなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (6) 「かし」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (7) 「山ぎは」の意味の説明となるよう、次の文の空欄に、それぞれ「山」の数を記入する。
ア 間の中の虫。 イ 月明かりの夜。
- ウ 夏のむし暑さ。 エ 雨が降る夜。

- (1) 紫がかった雲。
(2) 蟻が飛ぶ。
(3) 趣がある。
(4) 鳥の寝どころ。
(5) 霜が真っ白だ。

2 後の問い合わせに答えなさい。

- (1) 「やうやう」 (2) 「なほ」 (3) 「をかし」を現代仮名遣いに直しなさい。
次の古文の――の言葉の意味を、後から一つ選びなさい。
*うつくしきもの。瓜にかきたるちごの顔。

ア ありがたい イ 美しい ウ 可愛いらしく エ おもしろい

3 次の古文と現代語訳を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- (1) 春はあけぼの。やつやつ白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のはそくなびきたる。
夏は夜。月のころはさらなり、間もなほ、**虫の多く飛びちがひたる。**またただ一つ二つなど、ほかにうち光りて行くもをかし。
雨など降るものかし。
- (2) 「山ぎは」の意味の説明となるよう、次の文の空欄に、それぞれ「山」の数を記入する。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (3) 「空」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (4) 「さらなり」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (5) 「飛びちがひたる」の意味を、現代語訳から書き抜きなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (6) 「かし」の意味を、次から一つ選びなさい。
ア 変だ イ 切ない ウ 滑稽だ エ 趣がある
- (7) 「山ぎは」の意味の説明となるよう、次の文の空欄に、それぞれ「山」の数を記入する。
ア 間の中の虫。 イ 月明かりの夜。
- ウ 夏のむし暑さ。 エ 雨が降る夜。

(現代語訳)
春は明け方。だんだんと白んでいく山ぎが少し明るくなつて、紫がかつた雲が細くなびいている(のは風情がある)。夏は夜。月の頃は言うまでもないが、間もやはり、虫が多く飛びかっている(のがよい)。またほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくもの。雨などが降るものい。

(現代語訳)
春は明け方。だんだんと白んでいく山ぎが少し明るくなつて、紫がかつた雲が細くなびいている(のは風情がある)。夏は夜。月の頃は言うまでもないが、間もやはり、虫が多く飛びかっている(のがよい)。またほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくもの。雨などが降るものい。

(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
B	A	云 が	山 ぎ わ か	山 ぎ わ か	空 く う	ア
ウ	エ	光 り て 行 く	(ただ)一 つ 二 つ (など)	ほ の か に う ち		

(清少納言「枕草子」より)

(2)	(1)	(1)
ウ	おかし	ようよう

2 知抜 5点×4 /20

(1)	(2)	(1)
ふへほ	語頭や助詞以外の「はひすばらしい」と読む。	よ

1 知抜 3点×10 /30

むらさき
ほたる
おもむき
ねしも

水 愛 動
幼 傾ける 踊る
晶 「足」ではない
兒

100
満点アシスト

基本4 枕草子

作者の四季に対するもの見方や、感じ方に触れる。

1 知抜 3点×10 /50
2 知抜 5点×4 /50
3 知抜 5点×10 /100

まくらのすず

P.36-39
20分

